

## 八丈島航海記

“TRITON”グループは、船齢16年限定沿海仕様、定員12名の30ft艇で、70代2人、60代2人、50代2人、40代2人の計8名が乗組み、8月8日～13日の6日間、八丈島にクルージングしました。

あらかじめ、上架して船底塗装を行いました。艇の艦装は、ヤンマー3GM搭載、ディスプレイ付GPS、オート・パイロット、デブス・サウンダー、風向風速計、およびスピード・メーターなどを装備しています。

30ft艇で8名というのは多過ぎるのではないかともしましたが、オーバーナイト・セールになりますし、ワッチの際は4名ずつになりますからこれでよかったと思います。

もっとも、船中泊は無理かもしれません。(我々は、神湊(加計)港すぐ上の民宿小崎荘に宿泊しました。)

臨時航行許可の手続は葉山ヨットサービスに依頼。近海仕様の信号紅炎等を新規購入。8人乗ライフラフト、衛星電話等はレンタルで調達しました。8人乗ライフラフトは布カバー梱包でフニャフニャと形が定まらず、かつ相当の重量があるので取扱いと置場所に困りましたが結局マスト後部のドッグ・ハウス上に固縛しました。

満タンの40L燃料タンクと3個の20Lポリタンク、合計100Lの軽油と5日分の食料、および大量のアルコール飲料と飲料水を積み込みました。

### 黒潮の大蛇行について

御蔵島あたりまでだとあまり黒潮の影響を受けないでしょうが、御蔵島以遠に行く場合は黒潮の大蛇行を考慮する必要があります。黒潮の大蛇行は、遠州灘沖、および相模湾沖に発生するようで、しょっちゅう変化しているそうです。これについては海上保安庁海洋情報部、および東京都島しょ農林総合センターなどのHPに情報がありますから、あらかじめ航海直前の蛇行状況を承知しておくといいでしょう。

現に、われわれも7月時点で調べたときは、黒潮は八丈島の南方を蛇行していたのですが、出航の時点では、八丈島のすぐ北方を流れていました。

夜の黒潮横断時に東へ相当流されると判断し、御蔵島西方から神湊港を目指すコースを選択しました。事実、当初針路を 190 度に設定しましたが、2300 に 181 度に、続いて 2400 には 175 度に航路修正しています。

八丈島は、神湊港の他、洞輪沢港、中之沢漁港、八重根港、底土泊地など、いくつかの港がありますが、ヨットなどプレジャーボートが入港するには神湊港が奥が深く最も安全に思われます。街区は島の中央部にあり、どの港からも離れています。

8月8日(土)

0915 葉山港本港を出港。

台風7号は西に去り、典型的な夏の高気圧に蔽われた相模湾は好天なもの方向の定まらぬ3 Kt程度の微風が続き、セールを上げず機走です。

1600 大島波浮港東沖を航過。

1800 夜間対応で20 L給油して、メイン・セールを上げ、セーフティ・ハーネスを着用しました。

ちょうど日没直前で、新島、式根島、神津島、利島が西方に見え、夕日を背景に実にきれいです。1832 日没。



真暗な東の水平線からチラリと現れた赤い月を本船の灯火かと思間違える一幕もありましたが大島東岸から三宅島西方の三本岳の西方までは本船、漁船のいずれにも遭遇せず、昇った満月を楽しみながら平穏な航海でした。

2300 三本岳西方通過後に 10 Kt の東風が吹き始めメインのみで機帆走です。

8月9日(日)

0300 までは海が穏やかでしたので、航海をオート・パイロットとGPSに任せきりでコース上の灯台等のチェックを怠けた手抜きのクルージングでした。風が18 Ktに強まり、メインをワンポイント・リーフしました。

0500 黒潮に入ったらしく波が荒くなり気温も上がりました。オールハズ・オンデッキ。夜が明けると黒潮の真只中で、海水は澄んで殆ど透明に近い色です。その透明度のゆえにかえって海水が黒く見えるということから昔は「黒瀬川」ともいわれたそうです。

0800 黒潮を抜け、風も6～7 Ktに静まりましたが、メインはワンポイント・リーフのまま航海を続けます。

神湊港は八丈島のほぼ中央の東海岸にあり、北から南下する航路なら一直線に入れます。港内の状況は、「小型船舶用簡易港湾案内 南方諸島 H-258」でみるのがいいと思います。

八丈島神湊へのアプローチを入港案内とGPSに頼っていましたが神湊港外に真白の大型クルーズ船が投錨しており港口が判らず困りましたが地元の漁船が大型クルーズ船の船尾に接近した後に見えなくなりましたので大型クルーズ船が港口を隠していると判断し、取敢えず大型クルーズ船の船尾に回りこんだら港口が見えました。神湊港は魚が多いようで、防波堤で多数の釣人が盛んに獲物を釣上げていました。

0920 一旦、八丈島神湊港の外防波堤内側に係留しました。

われわれが入港したときには、南北岸壁北側は地元の「30ft ヨット」と「潜水作業船」が常時係留しており、外来艇はその南側に横付係留していました。私達が入港した当時は既に33ft以上のヨットが3隻係留していてスペースが無いので北側の東西岸壁に横付係留しました。



外来艇は東京湾の44ftの”X44”、横浜市民ハーバーから来た「エタップ38ft」、および久里浜シティマリーナベラシスから来て葉山本港のシェスタの萬田さんが乗組む33ftデッキサルソンの「ティンカーベル」で萬田さんには我々の係留を手伝って貰いました。

葉山出港時から九州南方の低気圧が気になっていましたが、地元の人から「台風になるかも知れないので明日、奥に移動させたほうがいい」とアドバイスを受け、翌日早朝に対応することにして艇で朝食、昼食後に港内散策、夕方に予約した神湊港すぐ上の民宿の「小崎荘」に入りました。

小崎荘は民宿と遊漁船を営んでいたご主人が数年前に他界し、気丈な未亡人が民宿を営んでいて「私はヨット乗りには親切なのよ!」とっていました。その言葉どおり大変、親切にしてもらいました。なお、玄関には遊漁船時代に仕留めた大カジキ(4m以上)の写真がありました。

8月10日(月)

0500 津波警報で起床し、全員艇に行き、舳い状況を点検しました。熱帯性低気圧が急速に発達して台風8号に変わり、ほぼ八丈島直撃コースになったとのニュースが入り、港最奥の漁船溜り手前の物揚場近くに移動しました。

最も奥の水面は、一番狭い正方形の水面で所謂「漁船溜り」で北、西、南の三方の岸壁を地元漁船が隙間無く埋尽していて外来艇のスペースはゼロです。(おそらく、この場所は神湊港の最初の泊地だったと思われます。)

レンタカー(カローラ)2台で観光しました。昼食は「いそぎえん」です。このあと、空港で土産を購入しました。この島は、空港が土産品購入に適しているようです。観光は、八丈富士鉢巻道路。ふれあい牧場。みはらしの湯、千畳岩海岸。永郷展望台。アロエ園。八丈空港等です。

1700 台風対策。積載していた直径25m/m長さ50mのロープ2本を使って対岸から増舳いしました。ちょうど漁船溜り入口の漁船通路ですが、月後れのお盆のため漁船はしばらく出入りしないということでした。艇を左右両舷から舳いしましたからまず確実に思ったと思います。

結果的には、台風8号は八丈島直前で進路を南に変えたので僅かに直撃は免れましたが、結局、海況を考慮して滞在を1日延ばしました。観光後、小崎荘に戻り一旦レンタカーを返却。

2000 台風9号接近。11日は延泊とし、素泊りに決定しました。

8月11日(火)

1000 レンタカー(カローラ)1台で八丈島歴史民俗資料館、黄八丈協会、登龍峠などを観光しました。台風接近で、ときどき驟雨があり、あまり天気は良くありません。

1200 台風が八丈島南部を通過。昼食は大衆食堂で済ませました。

1400 みはらしの湯に入浴。

(うち4人は入浴後、バスで小崎荘に戻る)

1600 小崎荘に戻り、レンタカー返却。

1800 素泊りなので、夕食は、宿舎の厨房を借りて料理を作りました。

2200 就寝

台風のお陰で島内観光を2日間することになり、歴史民俗博物館、黄八丈なども見ることができましたので、貴重な経験をしました。八丈島というところは、江戸時代、島流しになった人々が伝えた文化があるためか、なかなか見処が多い島です。エンジンもない時代、上り性能の良くない和船で「鳥も通わぬ八丈島」といわれた離島までやってきた昔の船乗り達の勇気と技倆にあらためて敬意を覚えました。

8月12日(水)

0700 対岸からのロープ2本を外し港入口に移動しました。

0800 昨夕に続き、朝食は厨房を借りて自炊です。

1100 艇で昼食

1220 出港

出港前に、地元の漁師から、「(まだ海が荒れているから)まっすぐ戻る勇気はないだろう」と冷やかされました。八丈出港時は、台風一過後の穏やかな海でしたが港を出て

30分も行かないうちに、黒潮の流れが島の近くまで来ていて、北海面の黒潮部分が道路の段差のように盛上っていたので驚きました。黒潮に乗入ると風と潮が反対なので、波の起き方が不規則で急に海面が盛上り、また下がるなど波に翻弄され、全員安全の為にハーネスを着用しました。それでも復路は約1時間で黒潮を乗切り、その後は平穏な海面をノンビリと機走しながら帰港しました。



全員の心掛けが良かったのか台風来襲、地震なども間一髪で免れ、往復ともに好天に恵まれ、葉山 八丈間を 24 時間、八丈 葉山間を 21 時間と大幅に予想を下回る順調な機走航海でした。

八丈島は葉山から約 130NM(235Km)ほどの距離ですが、大島などに比べ南方文化圏の影響を感じられる土地でした。

以上